



『覚・求・徹』

～校長室だより～

令和7年2月12日(水)

第13号

葛城市立白鳳中学校

校長 中川 順一

「学校での学び」を考える

本日、2月12日(水)朝のリモート全校集会では、来月公開されるある映画の紹介をしました。香芝市出身の落語家、笑福亭鉄瓶(てっぺい)さんが手がけたドキュメンタリー落語の一つから着想を得られた塚本連平監督がある実話に基づいた物語を映画にされました。タイトルは「35年目のラブレター」という映画です。笑福亭鉄瓶さんの師匠である笑福亭鶴瓶さん、原田知世さんが出演されています。

この映画の主演のモデルとなっているのが、西畑保(にしはた たもつ)さんという方で、和歌山で生まれ、家庭が貧しかったことなどからいじめに遭い、小学校低学年の頃から学校に通えなかったのです。文字を読むことも、書くこともできないまま大人になり、「読み書きできないと人として認めてもらえない」と劣等感を抱き続けたそうです。そんな時、奈良市内のすし店が彼の境遇に理解を示して

くれ、すし職人として働き、35歳で出会った妻の餃子(きょうこ)さんと結婚、しばらくは読み書きのことを西畑さんは言い出せずにいたが、事実を知っても餃子さんは「つらかったでしょう。一緒にがんばろう。」と言ってくれたそうです。西畑さんはそんな妻の餃子さんにそれまで支えてくれた感謝を手紙で伝えたいと約35年勤めたすし店を定年退職後、読み書きを勉強しようと奈良市の春日中学校の夜間学級に入学しました。その7年後の71歳のクリスマス前、初めて餃子さんに感謝の思いを綴ったラブレターを送りました。そんな実話を基にした映画が今度公開される「35年目のラブレター」という映画です。



「学ぶ」というのは、いつからでもできるということが西畑さんの生

き方から分かります。学校という場所だけが「学び」の場所ではありません。2年生の皆さんが先日、経験した職場体験も大変貴重な「学び」です。もしかしたら卒業してからの「学び」の方が圧倒的に長いかもしれません。知らないことを教えてもらう、分からないことを自分で調べるなど膨大な「学び」が待っています。その分、たくさんの失敗、困難もあります。それを乗り越えなければなりません。だからこそ社会に出るまでの私たちの「学校での学び」がより大切になるのではないですか。チャレンジし、失敗し、それを乗り越える！私たちの学校こそそれが思いっきりできる場所ですよ。そんな「学び」ができる学校にしていけるのは皆さん自身です。

白鳳中学校を「居心地の良い」学校に！！



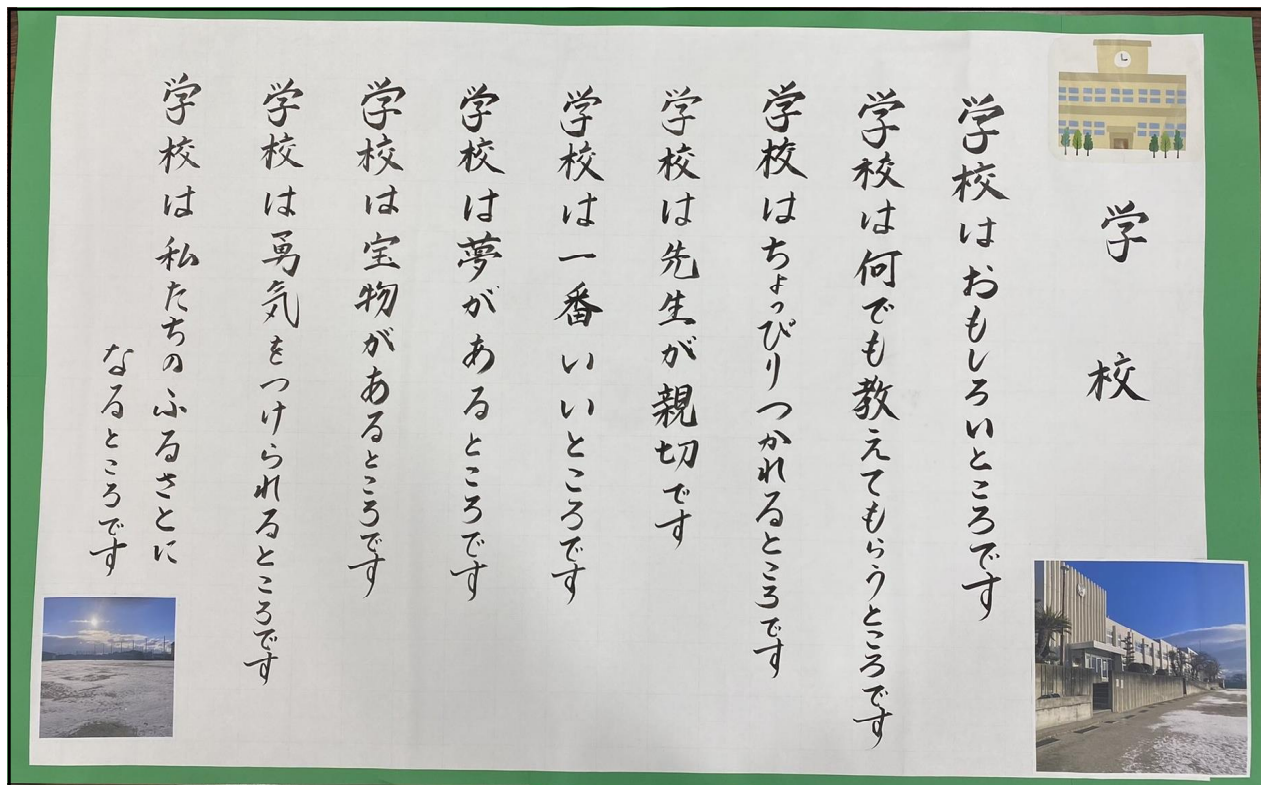
【奈良市立春日中学校夜間学級HPより】

夜間中学は、子どもの時に小学校・中学校へ行けなかった人が大人になってから、勉強したいと学ぶ学校です。学校に行けなかった理由は、戦争、貧困、差別などが挙げられます。

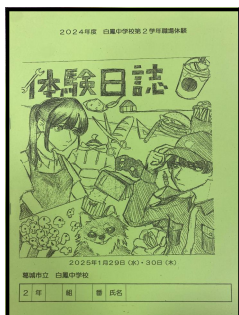


1976年6月に「奈良夜間中学をつくる会」ができ、夜間中学を作る運動が始まりました。9月には私設奈良夜間中学が西大寺駅近くの正強学園で週に4日の勉強が始まりました。うどんが出だされたことから「うどん学校」の愛称で呼ばれました。県や市との交渉を重ね、1978年に奈良市立春日中学校夜間学級として公立夜間中学校となりました。

↓ 東京のある夜間中学校に掲示されていた「学校」という詩です。
みんなに読んでもらえるように書き写しました。



2年生職場体験活動



1月29・30日の2日間、葛城市内の事業所を中心に2年生が職場体験に行きました。実際に働く経験させていただくことで学校では経験できないたくさんの学びがありました。

時間を守ることや大きな

声で挨拶をするなどそれぞれの事業所で得た経験・学びを学校や家庭でも

活かしていきたいですね。

各事業所のみなさま、

本当にありがとう

ございました。



新入生入学説明会

2月10日(月)當麻・磐城両小学校の6年生の皆さんを本校体育館に迎えて、新入生入学説明会を開催しました。中学校の授業のことや学校のルール、部活動についての説明をさせていただきました。大変寒い中でしたが、6年生の皆さんは最後まで集中し話を聞いていました。

4月10日入学式で会える

のを楽しみにしています！



授業参観後の合唱コンクールのビデオ視聴の様子です←

保護者の皆さまへ

先日、2月6日(木)、1・2年生の保護者の皆さまには授業参観にご来校いただきありがとうございました。多くの保護者の皆さまに授業の様子を見ていただき、その後、各学級教室で12月に行われた本校合唱コンクールの様子をビデオでご覧いただきました。子どもたちの1年間の成長を感じ取っていただけたでしょうか。

3年生の保護者の皆さまには、いよいよ卒業式まで1ヶ月となりました。まだまだお子様の進路決定に向けて心配な面も多くあることと思いますが、保護者の皆さまと一緒に最後まで子どもたちを信じて見守っていきたいと考えています。少しでも不安な点がございましたら遠慮なく学校へご連絡ください。